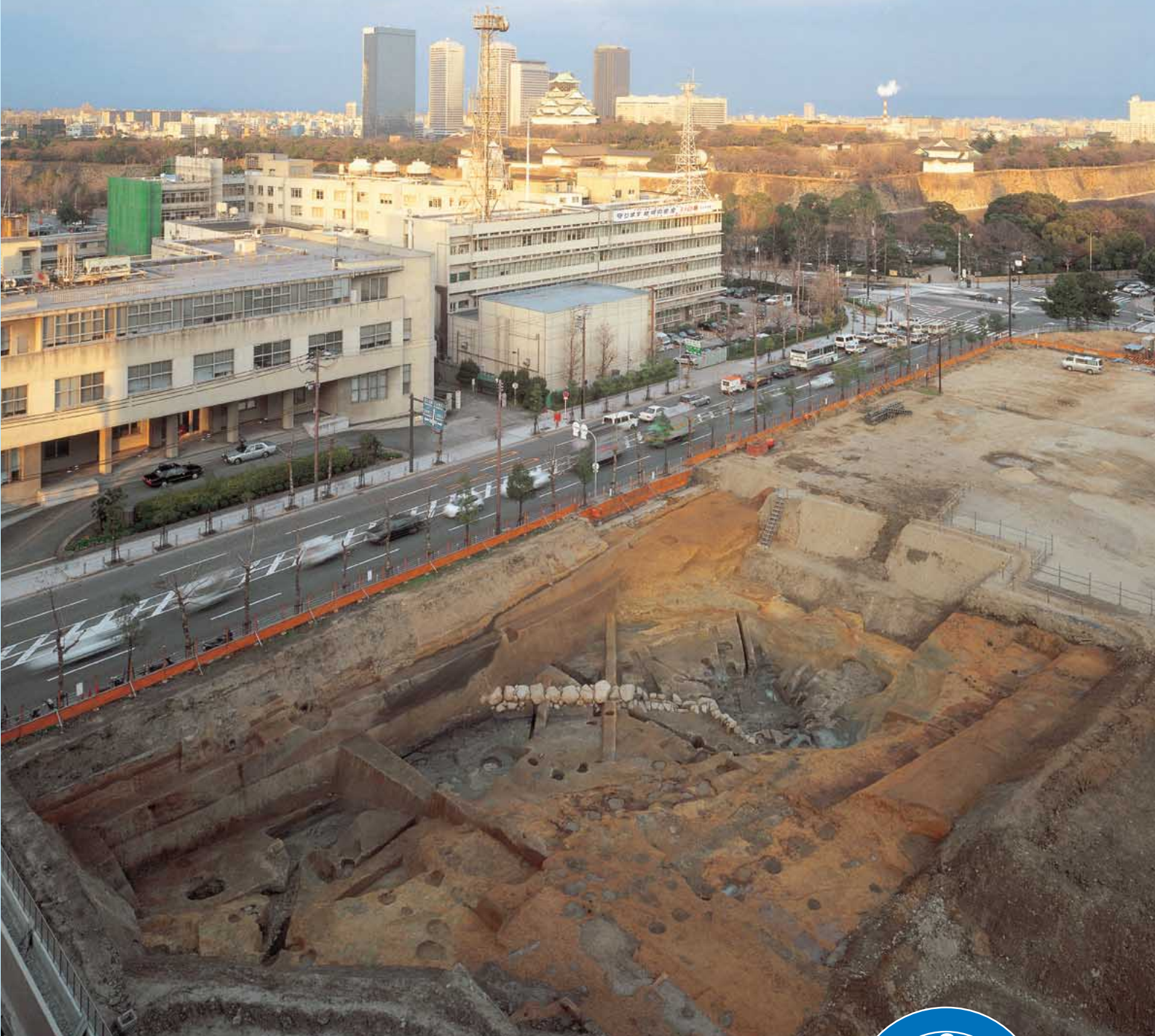


事業のあらし

1979 - 1999



財団法人 大阪市文化財協会
Osaka City Cultural Properties Association



財団法人大阪市文化財協会設立の趣旨

大阪は、古代に唐の長安を模したといわれている難波宮がつくられ、また中世には石山本願寺を中心に栄え、秀吉の大坂城築造により城下町として政治外交の中心地となり、徳川時代になると、商人の町として発展し、他に類のない繁栄を見せることとなりました。このような、歴史的な背景からも、大阪には数多くの文化遺産が残されていることは容易にうなずけるところであります。しかし、近時、経済の高度成長に起因した都市開発が急激に進められており、埋蔵文化財の包蔵地を何らかの形で破壊する結果を招いていることは、誠に憂慮に耐えないところであります。もとよりこうした事情は全国的に見受けられることであり、各地において遺跡保護のための緊急発掘調査の必要性が生じてきております。大阪市におきましても、これに対応して国民的財産である文化遺産を後世に伝えていくため、市民と一体となって文化財の保護にあたること何よりも肝要であると痛感するものであります。大阪市では、1960年に難波宮址顕彰会を組織し、難波宮跡の発掘および史跡公園の整備を行ってきました。1975年には高速道路建設のために遺跡調査が必要となり、高速大阪東大阪線難波宮跡調査会を組織し、1974年6月には地下鉄谷町線延長工事に伴う市内南部方面の遺跡調査会を組織して、それぞれ市内埋蔵文化財の発掘調査、整備を担当し、着々とその成果をあげております。しかし、何分にも埋蔵文化財の分布状況が広範囲多様にわたっており、実態調査や発掘調査により出土した遺物の整理も充分とはいえない状態であります。大阪市としても、大阪の歴史を解明する学術研究を目途に埋蔵文化財の保護とその調査体制を強化充実しなければならない事態に直面しています。そこで、大阪市において、埋蔵文化財の発掘調査を主体としてきた従来の上記3団体を統合し、発掘調査、遺物の整理等の迅速化や事務の簡素化をはかるとともに、新たに広範囲な文化財保護思想の普及と啓発をあわせ行うことが緊要であり、組織財政基盤を確立するため、財団法人大阪市文化財協会を設立します。

「財団法人大阪市文化財協会 設立趣意書」(1979年6月)より



大極殿の調査（難波宮址顕彰会）



地下鉄工事に伴う調査（長原遺跡調査会）

大阪市文化財協会の目的及び事業（寄付行為より抜すい）

（目的）

第3条 この法人は、大阪市内における文化財の調査、整理及び保存を行い、文化財の活用の積極的な推進を図り、もって市民文化の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査、整理及び保存
- (2) 史跡、名勝及び天然記念物の調査及び保存
- (3) 有形、無形及び民俗文化財の調査及び保存
- (4) 文化財に関する出版物の刊行
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

20年のあゆみ

設立から15年

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1979年 | 財団法人大阪市文化財協会設立 | 1987年 | 難波宮跡内で5世紀の倉庫群発見 |
| 1980年 | 難波宮東方官衙の調査 | 1988年 | 長原高廻り2号墳出土の船形埴輪の一般公開 |
| 1981年 | 区画整理事業に伴う長原・瓜破遺跡の調査開始
市営住宅の建替えに伴う長原・山之内遺跡の調査開始 | 1989年 | 復元古代船「なみはや」釜山へ航海実験
設立10周年記念国際シンポジウム「古代船の時代 - 5世紀の大阪と東アジア - 」
設立10周年記念展示「よみがえる古代船と5世紀の大阪」 |
| 1982年 | 講演会「大阪の歴史を掘る」はじまる | 1990年 | 大阪市埋蔵文化財収蔵展示室開設・「文化財講演会」開始
住友銅吹所跡の調査を開始 |
| 1983年 | 協会職員が講師を務める「中国歴史遺産の旅」はじまる | 1991年 | 山之内遺跡でナウマンゾウの足跡化石を調査 |
| 1984年 | 加美遺跡で方形周溝墓群の調査を開始
設立5周年記念シンポジウム「難波京と古代の大阪」
設立5周年記念展示「発掘された大阪」 | 1992年 | 森の宮遺跡で豊臣期の堀、人面墨画土器等を発見 |
| 1985年 | 豊臣氏大坂城本丸の石垣を発掘
長原七ノ坪古墳の調査 | 1993年 | 前期難波宮の「朱雀門」を発見 |
| 1986年 | 文化財情報誌『葦火』創刊 | 1994年 | 設立15周年記念講演会の開催、『大阪市文化財論集』刊行 |

最近の5年間

- 1995年
森の宮遺跡で赤漆塗りの豎櫛・碇石出土
長原遺跡で古墳時代中期の屋敷地を調査
区画整理事業に伴う長原遺跡東部地区の調査開始



森の宮遺跡の碇石

- 1997年
報告書作成室を設置
大坂城三ノ丸の堀を確認
前期難波宮の水溜め・石組み溝を調査



大坂城三ノ丸の堀

- 1996年
細工谷遺跡で和同開珎の枝銭や富本銭見つかる
広島藩蔵屋敷の船入り石垣確認
加美遺跡で古墳時代前期の直弧文板出土
瓜破遺跡で弥生時代中期の集落を調査



加美遺跡の直弧文板

- 1998年
「堂島窯」を発見、庖丁傷のあるスッポンの骨出土
『大阪市文化財協会 研究紀要』創刊



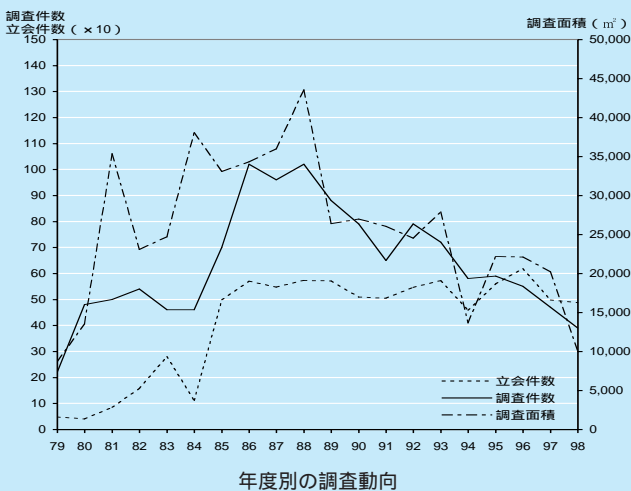
堂島蔵屋敷跡出土のスッポンの骨

- 1999年
我孫子南中学校に山之内遺跡の展示室を開設

調査の概要とその成果

1979年7月の設立以来、当協会が実施してきた大阪市内の埋蔵文化財調査は、98年度末までに、立会・調査合計9,512件、総面積510,141㎡に達した。毎年度の推移を見れば、80年代後半に件数・面積とも大きく増加し、その後はやや減少もしくは横ばい状態である。ここでは最近5年間の主要成果を紹介する。

平野区では長原・加美遺跡のほか、瓜破遺跡で弥生時代中期の居住域・墓域の調査が行われた。竪穴住居



3棟、掘立柱建物10棟、方形周溝墓2基が検出され、これまで不明であったこの時期の集落の具体像が明らかとなった。また、同区喜連東遺跡^{きれひがし}では開析谷内の調査で古墳時代中期の錫装刀子^{すずそうとうす}が出土した。

東住吉区桑津遺跡でも弥生時代の井戸を調査した。井戸からは多量の米粒のほか、魚骨やイノシシの歯が採集された。魚骨には淡水魚だけでなく、海産のサメ・エイなどもあり、弥生人の食生活の一端が窺われた。



瓜破遺跡の弥生時代集落

東住吉区杭全2丁目では弥生時代前期の集落、同区照ヶ丘矢田では弥生時代後期の大型壺を用いた土器棺墓、同区山坂2丁目では古墳時代の集落跡が見つかり、それぞれ杭全遺跡、照ヶ丘矢田遺跡、山坂遺跡として、『大阪市文化財地図』に新たに加えられた。

阿倍野区阿倍野筋遺跡では古墳時代前期の大型の竪穴住居・掘立柱建物^{どすい いいだこつぼ}が調査された。朱を入れた土器が出土したほか、土錘・飯蛸壺・鉄製ヤスといった漁撈具も見つかった。同区阿倍寺跡の調査では白鳳期の瓦や寺域を区画していた中世の大溝が検出された。

天王寺区では細工谷遺跡のほか、縄文時代早～中期

の土器が出土した宰相山遺跡^{つばあふみ}、木製の壺鐙や多数の墨書土器の見つかった四天王寺旧境内遺跡の調査が行われた。宰相山遺跡では倉の跡と考えられる飛鳥時代の礎石建物も確認された。

中央区では難波宮跡や大坂城跡・城下町跡の調査が主体を占めた。それ以外では森の宮遺跡の調査が注目される。縄文時代の赤漆塗りの^{たてくし}竪櫛^{いかりいし}がほぼ完全な姿で出土し、巻き付けた蔓の残る碇石が見つかった。

福島区堂島蔵屋敷跡では京焼系の陶器窯が発見され、北区・東淀川区では弥生・古墳時代の遺跡として本庄東遺跡や東三国遺跡が新たに発見された。



森の宮遺跡の赤漆塗りの竪櫛



喜連東遺跡の錫装刀子



堂島で見つかった陶器窯

難波宮跡

1954年に最初の発掘が行われて以来、数々の重要な発見がなされている。最近の最も注目される成果は、中央体育館跡地で見つかった前期難波宮の時期の石組み溝と池状の水溜めである。水溜めは谷筋の最奥部につくられ、石をもって護岸された箇所もあった。水溜めの内外には丸太や板材を使った枠が4箇所⁴に設けられ、底に玉石を敷いていた。石組み溝は水溜めから北西方向に延びる。0.5~1.0mの花崗岩の自然石を両側に積み、その上に最も重いもので

18tもの巨石を載せていた。これは同様の遺構の多い飛鳥地域の例と比べても最大級の規模といえる。

水溜めの南東には倉庫群が検出されており、『日本書紀』の「難波大蔵」に当るのではないかと考えられている。「養老律令」の中には「(倉庫の)側に池渠を開け」という規定があり、水溜めとの関係が注目される。

水溜めからは木簡や人形・舟形といった祭祀具も見つかった。7世紀中頃に属す木簡は、これまで難波宮で出土したものとともに我が国最古の部類に含まれる。



石組み溝と水溜め遺構



木簡を転用した人形

大坂城跡・城下町跡

秀吉によって築かれた大坂城は2.2km四方という広大な面積を占めていた。谷町筋で行った調査では、その三ノ丸の西外郭と考えられる施設が初めて見つかった。北部では大きな塀、南部では柵によって280mにわたる区画が設けられていた。多量の金箔押瓦が出土したことから、塀の内部には武家屋敷が存在したものと推定された。大手前1丁目の調査では豊臣期の地層から打刀の鞘が100本以上出土した。これは秀吉の行った刀狩との関係で注目される。

長原遺跡

近年本格的に始まった遺跡北東部の調査では、原石からナイフ形石器をつくったことがわかる後期旧石器時代の石器製作跡、壊した土器を埋めた古墳時代の祭祀跡や河川に築かれたシガラミ、飛鳥時代の集落跡や牛骨の埋納遺構が見つかった。これらは河内平野の厚い沖積層中に築かれた人間の営みを示すものである。遺跡東部の調査では、弥生時代中期の土器がぎっしりと詰まった土壌や方形周溝墓、古墳時代の大型の掘立柱建物を含む屋敷地が見つかった。



金箔押瓦



古墳時代のシガラミ(水流を制御する施設)

■ 細工谷遺跡

難波宮の南方約18kmにあり、難波京のほぼ中央に位置する遺跡である。全国で初の出土となった和同開珎の枝銭や、近年我が国最古の銭貨として注目されている富本銭ふほんせんなどが出土した。

枝銭が見つかった奈良時代の排水路からは、バリ銭るつぼや埴塼、金属を挟む道具である金鉗かなはし、銅板の切り屑も発見されており、金属製品をつくる工房が調査地付近にあったことが推定される。そこで和同開珎が鑄造されていた可能性も十分に考えられる。また、近くの井戸からは「百済尼」、「百尼」、「尼寺」と書かれた墨書土器が発見され、出土した多くの瓦から想定された古代寺院が「百済尼寺」という名称であったことも判明した。排水路からは長さ2.1m、幅0.3mのスギの板材も出土した。形態から寺院建築にみられる裳階部分もこしに用いられた屋根板と推定され、この寺院が当時の建築の中でも格式の高いものであったことを窺わせた。



「百済尼」、「百尼」と墨書された甕



和同開珎の枝銭

古代百済郡と呼ばれたこの地域は、百済王氏の本拠地に当る。百済王氏は朝鮮半島にあった百済の王族の末裔であり、「百済尼寺」は、細工谷の南東に位置する百済寺（堂ヶ芝廃寺）とともにその氏寺と考えられる。これらの成果は日本古代史上の重要問題を説き明かす鍵となるものである。

■ 蔵屋敷跡

江戸時代の大坂は「天下の台所」と呼ばれ、川筋には西国を中心とした諸藩の蔵屋敷が立ち並んでいた。北区にある広島藩蔵屋敷では船入りの部分が調査され、護岸の石垣が比較的良好な状態で見つかった。船入りの底に堆積した地層からは、年貢米を輸送した際に付けられた荷札木簡が300点余り出土した。参勤交代の途上、藩主が宿泊するために設けられた御殿跡や米蔵などの遺構も確認された。

福島区でも蔵屋敷の礎石建物や塀の跡が見つかった。この蔵屋敷の下層からは18世紀初めの陶器窯とその附属施設が検出された。まとめて出土した庖丁傷のあるスッポンの骨は大阪人のグルメぶりを語る。



広島藩蔵屋敷船入りの石垣

■ 加美遺跡

平野区の加美遺跡は弥生時代中期の巨大墳丘墓の見つかった遺跡として知られる。近年の調査では弥生時代中期の方形周溝墓が新たに2基見つかった。周溝内からは葬送儀礼に用いた多数の土器や鳥形木製品が出土した。墓の周辺には水田が広がっていた。弥生時代後期～古墳時代前期になると、遺跡は河内平野屈指の大集落に成長する。微高地上に集落や墓が営まれ、その北側に水田が広がっていることがわかってきた。この時期の流路から木製農具や直弧文を彫刻した板材ちよっこもんが出土した。また、奈良時代の大溝から人面墨画土器じんめんぼくがどきや人形・絵馬ひとがたなどが見つかった。このことは付近に重要な施設があったことを予測させる。



弥生時代中期の方形周溝墓

保存処理

遺跡で出土する遺物には、材質や傷み具合からそのままでは取り上げるのが困難なものがある。また、金属製品・木製品など、普通の保管方法では損なわれてしまうものも少なくない。このような遺物を展示などに活用し、後世に伝えるために88年から担当職員を置き、現場での取上げから保管に至るまでの科学的な調査・保存処理を進めている。脆弱な遺物が出土した場合、現場で応急処置を行い取上げる。また、地層の堆積状況や遺構そのものを記録・保存するために剥取り転写、型取りなども行っている。



切り取った遺構

保存処理対象となる遺物については、X線透視テレビカメラシステムを用いて構造や遺存状態の調査をはじめとする保存処理前の情報を記録する。その後、金属製品の場合は不要な錆を取り除き、樹脂を含浸して強化する減圧樹脂含浸処理を行っている。木製品の場合は遺物に含まれている水分を糖アルコールに置換して固定する糖アルコール含浸処理の開発・研究を推し進め、実用化に至っている。保存処理後の遺物は、温湿度を一定に保つことができる特別収蔵庫で保管している。



X線透視テレビカメラシステム

普及啓発

発掘調査の成果を市民にいち早く伝えるため、現地説明会を適宜行っている。また年1回、「大阪の歴史を掘る」講演会を開催し、その年の成果を報告し、遺物の展示・解説を行っている。発掘情報は隔月刊の雑誌『葦火』^{あしび}で伝え、99年10月号で82号を数えた。長原調査事務所では、90年より『文化財講演会』を各年のテーマに沿って年3回開き調査・研究の成果を報告している。また随時『東アジアの歴史を探る』講演会で、東アジア諸地域の考古学事情を紹介した。

難波宮および長原調査事務所では、各々1室に発掘調査の出土品を展示し、学生や市民の利用に供している。また、93年度から大阪市立博物館に「大阪市の考

古学」コーナーが設けられ、現在まで19回の展示を行った。他に市内の学校・公共施設等での展示企画と、それに伴う遺物の貸し出しに協力している。

年1回、市民が中国の遺跡を訪ねる『中国歴史遺産の旅』は18回を数えた。また、海外からの研究者の受入れを積極的に行い、情報交換と交流を深めている。

一方、土器や埴輪の製作体験や難波宮史跡公園における体験発掘などの体験型学習の催し、学校教育への協力などに取り組み、「(仮称)大阪市立新博物館・考古資料センター」の設立準備にも係わっている。

また、99年度からホームページを開設し、情報の発信にも努めている。



製作した土器の焼成



「大阪市の考古学」コーナーの展示

財団法人 大阪市文化財協会 役員・評議員 (1999年7月現在)

役員

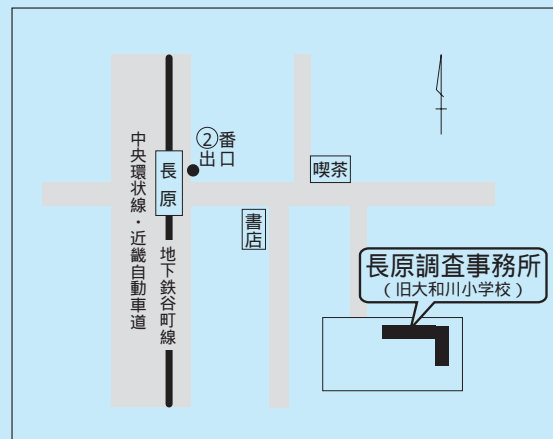
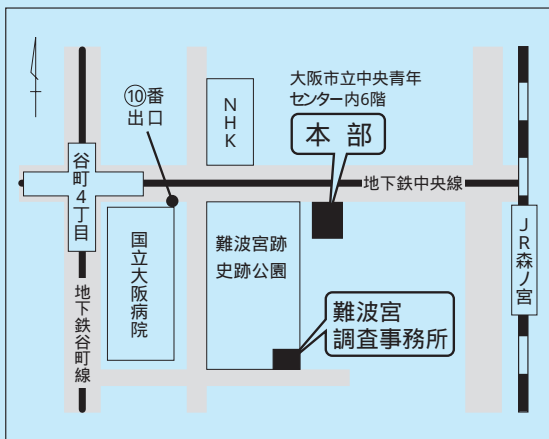
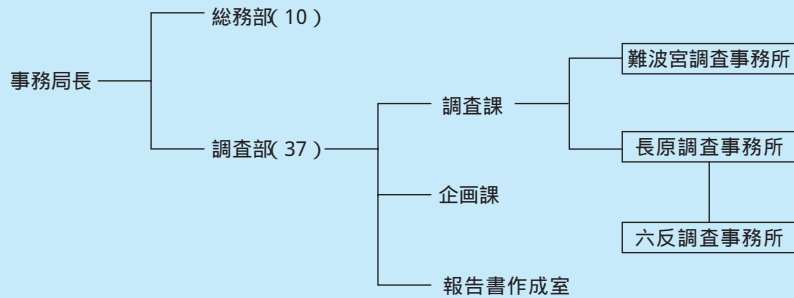
理事長	佐治敬三	サントリー(株)会長
常務理事	白木秀治	大阪市教育委員会事務局副理事
理事	伊藤助成	日本生命保険相互会社代表取締役会長
"	海保孝	(株)大和銀行頭取
"	黒川芳朝	大阪府教育委員会教育長
"	佐伯尚孝	(株)三和銀行相談役
"	敷田年博	住吉大社宮司
"	玉井由夫	大阪市教育委員会教育長
"	津江孝夫	今宮戎神社宮司
"	坪井清足	(財)大阪府文化財調査研究センター理事長
"	土崎敏夫	大阪市助役
"	西川善文	(株)住友銀行頭取
"	町田章	奈良国立文化財研究所所長
"	松下正治	松下電器産業(株)会長
"	山本恵朗	(株)富士銀行頭取
監事	淡居毅	大阪市財政局財務部長
"	寺井種伯	大阪天満宮宮司

評議員

評議員	石毛直道	民族学
"	木岡清	大阪市教育委員会事務局文化財担当部長
"	近藤明男	大阪市教育委員会事務局総務部長
"	里中満智子	文芸
"	鈴木嘉吉	建築史
"	千地万造	地質学
"	直木孝次郎	古代史
"	中尾芳治	考古学
"	長山雅一	考古学
"	西本南海男	大阪市教育委員会事務局文化財保護課長
"	水野正好	考古学
"	蓑豊	大阪市立美術館長
"	森口隆次	美術史
"	渡辺武	大阪城天守閣館長

大阪市文化財協会組織図

() 内は99年7月現在の職員数



財団法人 大阪市文化財協会

本部	〒540 - 0006	大阪市中央区法円坂1 - 1 - 35	TEL06 - 6943 - 6833	FAX06 - 6920 - 2272
難波宮調査事務所	〒540 - 0006	大阪市中央区法円坂1 - 6 - 48	ホームページアドレス	http://www.occpa.or.jp/
長原調査事務所	〒547 - 0013	大阪市平野区長吉長原東3 - 2 - 5	TEL06 - 6943 - 6836	FAX06 - 6920 - 2273
六反調査事務所	〒547 - 0011	大阪市平野区長吉出戸7 - 12	TEL06 - 6790 - 5541	FAX06 - 6769 - 2025
報告書作成室	〒542 - 0081	大阪市中央区南船場1 - 5 - 21	TEL06 - 6708 - 3738	FAX06 - 6769 - 2205
			TEL06 - 6265 - 9280	FAX06 - 6265 - 9281